

3 学期終業式

皆さんおはようございます。新型コロナウイルス感染予防のため、今回も放送での終業式とします。

令和2年度が終わります。この1年を振り返ってどうでしたか。どれだけ成長できましたか。

今年度はコロナ禍に見舞われ、臨時休校を余儀なくされたばかりか、授業や学校行事の見直し、部活動における各種大会の中止など、教育活動にも大きな支障が出ました。皆さんにとって成長の機会となるはずのさまざまな教育活動を十分には行えなかったことを、非常に残念に、また申し訳なく思っています。しかしながら、こうした状況下にあっても、この1年を何とか乗り越え、こうして終業式を迎えることができたのは、皆さん一人一人の理解と協力があり、何より新型コロナウイルス感染予防に努めてくれたお陰だと思っています。本当にありがとうございました。

ところで、コロナ禍のこの1年は、歴史に刻む大きな1年であろうと思います。その意味では私達は今、リアルタイムに歴史を生きていると言えます。そんな1年で、当たり前だと思われてきた社会常識が激変しました。社会基盤の脆弱性を露呈した一方で、コミュニケーションのツールやシステムが顕著な進展を見せ、新たな生活様式や価値観、従来にないビジネスなどが生み出されています。また、SNSやサブスクリプションなど、身の回りの製品やサービスが日本標準から世界標準へと大きく転化しています。さらに、社会の仕組みや産業構造が急激なデジタル化・クラウド化・オンライン化・リモート化を辿り、ニューノーマルが形成されつつあります。こうしたアフターコロナ、ニューノーマル時代を生き抜く上で必要なものは何でしょうか。

例えば、皆さんの家族の中にも、在宅勤務をされた方がたくさんおられると思います。出勤して仕事、この従来の画一的な形、勤務形態が崩れて、日々の時間がオンなのかオフなのか、仕事の時間なのか家族や大切な人とのプライベートな時間なのか、その境界が曖昧になりました。

このように当たり前が揺らぎ、さまざまな境界が曖昧・不透明になってきた時だからこそ、「個」として「ありたい自分」という一つの基準を持っていることはますます重要になってくると言われています。「ありたい自分」、それを英語で「Being」と言います。

皆さんは「ありたい自分」、「Being」が明確ですか。確たる目指すものがあり、その実現のためにブレずに努力する、楽な方に逃げない、流されない、妥協しない、そんな強い「Being」ですか。ぜひそうあってほしいと願っています。

また、オーストリアの経営学者ピーター・ドラッカーは「未来予測をする最良の方法は未来を創ることだ」と語っています。予測できない変化に受け身で対処するのではなく、一人一人の強みや知識、知恵、個性を掛け合わせ結合体として協働的・主体的に新しい価値を創造していくことが重要であると言いたいのだと思います。皆さんの「強み」は何ですか。それを活かす努力をしてください。「知識」「知恵」「個性」、これらを磨き上げ、高める努力をしてください。

この2年間、明高生を見ていて、無限の可能性を秘めているのに、伸びきれない、もしかしたら伸ばしきれないのかもしれないかもしれません、あるいは進化しきれない、そんな人が非常に多いと感じています。それを打破するためにも、もっと貪欲に、こだわりを持ってそれぞれの「Being」を目指して飽くなき努力を重ねてください。そして、「強み」「知識」「知恵」「個性」、これらをさらに磨き上げ、高めてください。

明高生一人一人が、この1年をしっかりと自省し、それを礎に、さらに飛翔してくれることを切に願っています。

最後に、繰り返しになりますが、明日から春休みです。不要不急の外出、3密の場所への出入りは避け、やむなく外出した場合も、手洗い・消毒とマスクの着用を徹底し、皆さん一人一人が新型コロナウイルス感染予防に努めてください。

それでは、4月8日に全員が元気に登校してくれることを祈念して、式辞とします。